

氏名（本籍）	ヨモアサコ	四方朝子（東京都）
学位の種類	博士	（音楽）
学位記番号	博音第63号	
学位授与年月日	平成17年3月25日	
学位論文等題目	論文	ドヴォルジャークのチェコ語歌曲 - チェコ語のアクセント分析と歌唱法の考察 -
論文等審査委員		
（総合主査）	東京芸術大学	教授（音楽学部） 朝倉蒼生
（演奏審査主査）	”	”（”） 朝倉蒼生
（演奏副査）	”	”（”） 伊原直子
（”）	”	”（”） 多田羅迪夫
（”）	”	”（”） 檜山哲彦
（論文審査主査）	”	”（”） 檜山哲彦
（論文副査）	”	”（”） 朝倉蒼生
（”）	”	”（”） 伊原直子
（”）	東京外国語大学	助教授（外国語学部） 篠原 琢

（論文内容の要旨）

アントニン・ドヴォルジャーク（Antonín Dvořák）が生きた1841年～1904年という期間だけを考えてみても、チェコはまさに激動の時代であった。1867年にオーストリア＝ハンガリア帝国が建国され、チェコは1918年までその圧制に苦しむ。歌曲集《ジプシーの歌》が作曲された1880年には、ターフェの言語令が発令され、ボヘミアとモラヴィアに住むすべての官吏はチェコ語と共にドイツ語の使用を義務付けられた。ボヘミアではチェコ系とドイツ系の住民の間に亀裂が生じ民族主義の対立が始まっていた。

ドヴォルジャークは1860年代から90年代までの間に歌曲と二重唱曲をあわせて100曲以上残している。その中で、自然と愛を讃えた彼の代表作《ジプシーの歌》からは、いかにもボヘミア的な響きを感じられる。時代的にも自由と解放を願って、自らの意識の中にある感情の表出を以って生まれた歌曲集ではないかと思われる。また、《聖書の歌》は、いわゆる「アメリカ時代（1892年～1895年）」と呼ばれる時代に書かれた彼の最後の歌曲集であり、その円熟した手法により自らの信仰の深さを確認する意味においても詩の内面を強烈に、また的確に表出した作品といえる。

一方、最近日本でもチェコ音楽を探究すべく要請が高まっていると思われ、「チェコ音楽の歴史 - 民族の音の表徴 -」（内藤久子、音楽の友社、2002年）など興味深い書物も出版されている。ただ、残念なことにドイツ語、フランス語、英語、イタリア語に比べ、チェコ歌曲の歌唱における具体的な発声法、発音法などに言及されているものが極端に少なく、一部のオペラ・アリアや民謡の特性などを解説しているに留まっている。こうしたことから推察出来るように、ドヴォル

ャークの歌曲とその様式に重点をおいた研究はかなり少ないようである。例えば、海外においても、V.クラファム著の『Antonín Dvořák-musician & Craftsman-』（London, 1966）では、ドヴォジャークの音楽作品の作曲経緯、楽曲分析は記述されているものの、詩の韻律に関しては「彼は作品を作るとき、言葉が繰り返されることによって生まれるリズムをパターン化したいと思っていたが、時々不満足なアクセントの置き方に行き当たった。」という程度でしか触れられておらず、具体的な例を挙げての考察はない。一方、パヴェル・トロストの『言語と文学の研究 (Studie o jazycích a literatuře)』の中の「ドイツの詩行との比較におけるチェコの詩行 (Česky verš srovnání s německým)」(Edited by Trost, Praha 1955) はチェコ語の韻律論として大変興味深い。言語と文学の問題が焦点であり、音楽的な観点からの記述は成されていない。筆者はまず修士論文で、ドヴォジャークの《ジプシーの歌》を対象に、チェコ語とドイツ語における詩の韻律構造の比較という形でのチェコ語歌唱研究を試みた。この歌曲集で二つの言語の詩が韻律的にどのような共通性を持ち、またその詩がどのように音楽と融合しているのかを追求した。分析では全七曲中、二曲でチェコ語とドイツ語の韻律にズレが生じたが、音節数がほぼ一致しており、本質的に性質を異にする二つの言語での一致は見事であった。今回博士論文では、得られた成果を基に、ドヴォジャーク最晩年の音楽作品《聖書の歌》において、チェコ語の韻律論も視野に入れながら、チェコ語の詩と音楽との結びつきを探る。第一章では、導入も含めたチェコ語の基本的特徴、第二章でチェコ語の韻律論から導き出した法則に従い、チェコ語の韻文をテキストにした《ジプシーの歌》作品55を韻律分析する。続く第三章では、散文をテキストとした《聖書の歌》作品99を対象に、チェコ語の散文における文アクセントを分析する。そして、最終章で、チェコ語のアクセント構造と歌曲のリズム構造との関わりを考察し、分析結果をもとに《聖書の歌》歌唱法における留意点を具体的に述べる。また、我々がチェコ語歌曲を歌唱する上での問題点を挙げ、筆者なりの解決法で、正しいチェコ語音楽作品の表現方法および、その歌唱法を追求する。

激動の時代に身を置き、その中で自分たちに課せられた使命を果たすためにドヴォジャークをはじめとする音楽家たちがどれだけ高く羽ばたかねばならなかったかを考えると、想像を絶するものがある。今日、日本人である私達が正しくチェコ語を発音することが、音楽の持つ内容を引き出すことに繋がり、また結果的にチェコの音楽史の中でドヴォジャークが果たした役割を描き出すことになるのではないかと考え、チェコ語の言語及び言語と音楽との関係につき分析し、歌曲としての歌唱法について考察した。